

TGR TEAM ZENT CERUMO

2023 AUTOBACS SUPER GT Report

SUZUKA GT 450km RACE

第5戦 鈴鹿サーキット

ZENT CERUMO GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆ 8月26日（土） QUALIFY

公式予選結果 5位



立川祐路が2023年限りのSUPER GT引退を発表し、最後となるレースまでのカウントダウンが始まった8月5日（土）～6日（日）の第4戦富士では、戦略も成功し5位フィニッシュを果たしたTGR TEAM ZENT CERUMO。その勢いを繋げるべく臨んだ第5戦の舞台は、三重県の鈴鹿サーキット。第3戦に続いての今季二度目の開催だ。

前戦ではZENT CERUMO GR Supraに良好なフィーリングを得ていたチームは、この第5戦でまずは予選上位進出を目指すべく、8月26日（土）の予選日に臨んだ。全国的に今季の夏は酷暑が続いているが、予選日の鈴鹿サーキットも午前9時15分の公式練習開始時点で、気温33度／路面温度39度というコンディションとなった。

ZENT CERUMO GR Supraは、第5戦に向けて今までの鈴鹿とは異なるニュアンスのセットアップを施し臨んだ。この公式練習はまずは立川祐路がステアリングを握りコースインし、まずは5周を走った後、3周ごとの短い間隔でピットアウト～インを繰り返しながら周回。セットアップを確認していき、



TGR TEAM ZENT CERUMO

17 周を走りピットに戻ると、石浦宏明に交代。こちらセットアップを確認しつつ、2 回のアウト～インを経て、GT500 クラスの専有走行の時間帯に 1 分 48 秒 972 というベストタイムを記録した。

ただ立川、石浦ともに「正直、このままいくと Q1 は通れない」というフィーリング。ZENT CERUMO GR Supra の公式練習での順位は 13 番手というものとなった。チームはその後も立川がサーキットサファリ、石浦がフルコースイエローのテストの時間帯を使いながら、セットアップの改善を行っていった。するとタイムを見ても大きく改善。予選に向けた方向性を見出すことになった。



FIA-F4 第 7 戦の決勝レースの遅れにより、10 分ディレイで始まった午後 3 時 20 分からの公式予選も、気温 33 度という暑さは変わらず、路面温度は 52 度というコンディションのなかでスタートした。午後 3 時 53 分から始まった GT500 クラスの Q1 は、石浦がアタッカーを担当。もちろん目標は Q1 突破を果たし、Q2 の立川に繋げることだ。

石浦はライバルよりもやや早めのタイミングでコースインしたが、4 周目に遅れてコースインした他車に引っかかることもなく、アタック一閃。1 分 47 秒 176 というタイムを記録する。奇しくも、その数秒前にコントロールラインを通過していた #17 NSX-GT とまったくの同タイム。ZENT CERUMO GR Supra はまずはタイミングモニターの 2 番手につけた。

その後ライバルたちも続々とアタックし、タイムが更新されていくも、石浦のタイムは最終的に 7 番手に残り、しっかりと Q2 の立川にバトンを繋いでみせた。

鈴鹿での最後のタイムアタックとなった立川は、スタンドのファンからの拍手に



TGR TEAM ZENT CERUMO

送られるように残り6分ほどのタイミングでコースインし、タイヤをウォームアップさせていく。4周目、立川はチェッカーに合わせアタックラップに入るが、デグナーカーブでわずかにタイムを失ってしまった。第3戦の予選でコースオフしてしまったのと同じ場所だったが、今回は無事に踏みとどまることに。立川は1分47秒253でチェッカーを受けた。



今季ベストグリッドだ。

結果的に立川のタイムは6番手。さらにチェッカー後、3番手だった#8 NSX-GTが走路外走行だったとしてベストタイムが抹消となり、ZENT CERUMO GR Supraは5番手から決勝レースを戦うことになった。表彰台も見えるチームにとっての

この好位置を結果に繋げるためには、長丁場のレースでチームがミスなく、高いペースでしっかりと戦い抜くことが必要だ。TGR TEAM ZENT CERUMOは真夏の一戦となる8月27日（日）の決勝レースに向け、気を引き締め直していく。

ドライバー／立川祐路

「クルマを変えて今回持ち込んでいますが、公式練習を走った時点では、『正直終わったな』という感触でした。クルマが不安定で、正直乗っているのが怖いくらいの状況でした。でもサーキットサファリやフルコースイエローの時間を使ってセットアップを大きく変えたところ、すごく良くなったので、その状態で予選にいかうとなりました。Q1では石浦選手の雰囲気も良さそうでしたし、7番手だったので、Q2では1台出走しなかったことから『これ以上落ちることはない』と思い切っていました。少しデグナーで失敗してしまいましたが、今回も第3戦と同じような状況になってしまいそうでした。それがなければ1～2ポジションくらいは上げられたかもしれないので、悔しいですね。完璧に決めなければいけませんでした。とはいえ、今日できることはチームとしてできたと思いますし、決勝を見すえたタイヤ選択をしているので、機能すればと思います。混戦をくぐり抜けて表彰台にいきたいですね」



TGR TEAM ZENT CERUMO

ドライバー／石浦宏明

「今回、セットアップを今までの鈴鹿と異なる方向性の
もので持ち込んでいましたが、午前の公式練習の立
川選手のタイムから伸び悩んでおり、このままではロ
ングランもできないし、予選 Q1 も通らないだろうと
思っていました。タイム以上にフィーリングも悪かったので、大きくセットア
ップを変えていったところ、タイムも上がっていき光明が見えました。ただ、
そこではニュータイヤを履いていなかったのですが、エンジニアの皆さんがセ
ットを考えてくれ、予選でもコースインしてすぐに好感触を得ることができま
した。結果的に GR Supra 勢で唯一 Q2 に進出できましたし、今回も立川選手の
ファンから怒られずに済みました（笑）。ただ同時にライバルとのスピード差
も開発ドライバーとしては感じており、我々の決勝ペースも良くしなければと
思います。前戦はペースがあまり良くなかったので、改善したいですね」



村田淳一監督

「まずは Q1 突破、そして Q2 進出で 5 番グリッドを獲得することができ、シー
ズン前半戦の状況を考えると、尻上がりに調子を上げることができていると思
います。午前の公式練習ではどうなることかと思いましたが、ドライバーが的確
なコメントをしてくれて、セットアップを仕上げてくれました。ドタバタし
ましたが、最終的にはうまく合わせることができたのではないのでしょうか。明
日の決勝も長いレースですし、去年は同じようなコンディションでトップ争い
もできています。うまく戦うことができれば 5 位以上を目指せますし、表彰台
を目指してシリーズ後半戦に弾みをつけられるレースにしたいと思います」



TGR TEAM ZENT CERUMO



TGR TEAM ZENT CERUMO

予選結果

	Rank	Car No.	CarName	Q2 Time	Q1 Time
	1	16	ARTA MUGEN NSX-GT	1'46.385	1'47.017
	2	23	MOTUL AUTECH Z	1'46.422	1'46.509
	3	17	Astemo NSX-GT	1'46.659	1'47.176
	4	64	Modulo NSX-GT	1'47.212	1'47.009
	5	38	ZENT CERUMO GR Supra	1'47.253	1'47.176
※2	6	24	REALIZE CORPORATION ADVAN Z	1'54.094	1'46.399
※1	7	8	ARTA MUGEN NSX-GT	1'59.352	1'46.399
	8	100	STANLEY NSX-GT	D.N.S.	1'47.277
	9	1	MARELLI IMPUL Z		1'47.666
	10	3	Niterra MOTUL Z		1'47.780
	11	14	ENEOS X PRIME GR Supra		1'47.831
	12	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra		1'47.839
	13	19	WedsSport ADVAN GR Supra		1'47.840
	14	37	Deloitte TOM'S GR Supra		1'48.114
	15	36	au TOM'S GR Supra		1'48.274

※1 CarNo.8 当該ラップタイム(1'46.577)不採用(SpR.29-7.「走路外走行」)

※2 CarNo.24 当該ラップタイム(1'47.579)不採用(SpR.29-7.「走路外走行」)

